



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2020年も年の瀬に向かっていっている中で、新型コロナウイルス感染症はその勢いを緩めることはありませんでした。中国で発生の報告から既に1年以上経過しています。

第一波の頃と比較すると、感染すれば即命がない、といった危機感は薄まっていますが、結局のところワクチンも決定的な治療薬もないままで、終わりなき戦いの様相を呈しています。

第一波の終わり頃、感染者が減少して世の中の経済活動再始動という流れが生まれました。Go to諸々が始まり、何とかして日常生活を取り戻そうと、今は国民総出で頑張っている真っ最中です。それを見透かしたように人の動きに乗じて第二波、第三波と波状攻撃を仕掛けてきている中、いよいよ我々の疲弊もピークに達しようとしているのではないのでしょうか。

精神神経学会は比較的早い段階からこの感染症によるメンタルヘルスへの影響を訴えておりました。感染された方々の実質的な不安や孤立感は元より、風邪を引いただけで「自分は新型コロナウイルスに感染してしまった、他の人に移してしまった」といった過剰な不安にも配慮すべき、また経済的困窮から自死に至ることは看過できないと述べています。

しかしながら精神科外来を続けている中で上に述べた事例に対応することは、私に限って言えば皆無でした。ならば学会の述べていることは杞憂なのかということ決してそうということではなく、不安や孤独を抱えながらも言い出せないでいる人たちが想像以上に多くいらっしゃるのだろーと思います。皆さんの身近でこういった不安や愚痴を聴く機会があったならば、放っておかず傾聴していく必要があると思います。人間として支え合う意識が問われていると考えましょう。

10月 秋祭り

10月27日（火）～29日（木）の三日間にわたって秋祭りを行いました。今年は感染症対策で病院全体での行事は難しく、各病棟単位での実施となりました。また、例年のような屋台の実施はなく、カラオケ大会と盆踊りをメインとし、実施後に病棟へ戻っておやつを食べるという内容で行いました。

今年は院長先生の開会の挨拶は映像で流れ、患者さんが毎年楽しみにしている院長先生の歌も映像で上映しました。その際、病院の多くの職員が参加した映像も流れ、普段なかなか会う機会のない自分の病棟外の職員や、普段関わりが少ない薬剤部や保育所の職員も見ることが出来、患者さんは楽しそうに笑顔で鑑賞されていたり、映像の職員に手をふっている姿も見られました。

カラオケ大会では各病棟、上位5名までには景品が用意され、上位3名まで腕時計などの豪華賞品が用意されました。皆景品を狙って、日頃の練習の成果を発揮し熱唱されていました。

また、患者さん以外にも各病棟職員が飛び込みで歌を歌ってくれたり、アニメやメイドのコスプレをして登場してくれたり、普段と違う職員の姿を見て、患者さんも楽しんでくれました。

カラオケ大会の後は、盆踊り。やぐらを中心に輪になり、炭坑節を踊りました。普段OTの活動内で炭坑節を練習してきており、しっかり踊っている患者さんも多くいました。基本的には患者さんは椅子に座っての踊りでしたが、盛り上がってくると立ち上がり職員とともに歩きながら踊る患者さんもありました。



患者さんからの感想としては、「みんな一生懸命歌っていて良かった」「歌の上手い人が多くて楽しかった」「緊張したけど、練習の成果が出せた」「院長先生の歌が良かった、上手だった」「職員のマツケンサンバが良かった」等の意見が聞かれました。



13 病棟レク ミニゲーム

7月21日（火）に、病棟レクが行われました。今回はチーム戦で、前半が射的、後半が宝探しの内容でした。射的はアルミホイルの芯を銃にし、トイレットペーパーの芯を弾にして打ち出したゴムの力で、引いて飛ばしました。手離れがわるく飛ばせない患者さんもありましたが、上手な患者さんは狙いをしっかりつけて的であるコップタワーを倒していました。



後半の宝探しは、宝が隠されたコップを当てるゲームでした。コップを開けて宝が現れると、患者さん達からは大きな歓声が上がりました。



22 病棟レク スイカ割り

8月24日（月）に、スイカを食べたいという患者さんの希望に応え、スイカ割りが行われました。ホールに輪になってスイカを囲み、ビニールを掛けて清潔に工夫されたスイカに向かって、新聞を丸めて作った安全に配慮された棒で、目隠しをしても安全のように職員が横につき、周りの患者さんからの誘導や応援の声が上がる中、棒を持った患者さんは慎重に移動しながらスイカ割りを楽しみました。スイカに当たっても外れても大きな歓声が上がり、皆嬉しそうな表情をしていました。



午後はカットしたスイカが振る舞われました。甘くて美味しいスイカに夏の暑さを忘れる楽しいひと時でした。



11 病棟レク お月見的当てゲーム

9月23日（水）に、お月見にちなんだ病棟レクを行いました。午前中に患者さん数名と一緒に抹茶ババロア作りを行い、午後のおやつ準備をしました。久しぶりのお菓子作りを楽しめたようでした。



午後は体育館にて歌や秋についての回想、お月見的当てゲームを行いました。2チームに分かれ、お月見の壁画に向かってお手玉や風船を投げました。壁画には点数が書いてあり、高い点数の所に当てていき、合計点数の高いチームの勝ちとなりました。どちらのチームも健闘し、とても盛り上がりしました。



セレクトおやつ



当院では、食事療養部主催のセレクトおやつが定期的に行われています。食事療養部では「長期入院の患者さんに楽しみを提供する」をコンセプトに実施しています。今回は全6品から3品を選ぶ内容で、患者さんは彩り豊かなおやつの中から好みの物を選び、にこやかに食べていました。



新Dr.紹介



湯澤 千尋 (ユザワ チヒロ) 先生 令和2年4月1日 入職

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| Q1. ご出身は？ | A1. 長野県上伊那郡中川村 |
| Q2. 小倉病院の印象は？ | A2. 大自然に包まれた病院で穏やかさと静けさに満ちた環境 |
| Q3. 趣味は何ですか？ | A3. 囲碁、読書、翻訳（ドイツ語） |
| Q4. 一言お願いします | A4. 84歳、週2日 頑張っています！ |



川渕 優 (カワブチ マサル) 先生 令和2年8月1日 入職

- | | |
|---------------|--|
| Q1. ご出身は？ | A1. 高知県 |
| Q2. 小倉病院の印象は？ | A2. 皆さん真面目でソフトな印象 |
| Q3. 趣味は何ですか？ | A3. 登山、トレッキング、旅行 |
| Q4. 一言お願いします | A4. 電子カルテは記録や指示確認のため大切な医療システムです。患者さんの声を聞き逃さぬよう努めます |

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私たちは治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

編集後記

コロナ禍にあって、感染対策が重視され、院内活動でもその影響が多く出ています。病院全体で行っていた行事は、一堂に会する事が難しく、生活単位である病棟ごとで日を変えての開催となっています。また、面会の制限も行われ、患者さん、ご家族ともに会えないさみしさや不安を募らせていることと思います。この安曇野日和が、院内の様子を知って安心して頂く一助になればと考えています。